

## 科学基礎論学会秋の研究例会ワークショップ要旨

「科学基礎論教育：科学基礎論とはそもそも何か、何だったのか」

中根美知代・村上祐子

これまで「科学基礎論教育の教科書を作成する」ことを最終目標に、授業実践の交換等を中心とした科学基礎論教育ワークショップを開催してきた。「授業の対象はどういう学生になるだろうか？」「誰がどこでどうやって教えるのだろうか？」といった問題意識である。しかし、「そもそもこの学会が教科書を出すとしたらどういう目的となるのだろうか？」という問題の原点に立ち返ると「学会の目的は何だろうか？」という問いに答えられないわけにはいかない。

オーガナイザ（中根・村上）の事前の打ち合わせで得た暫定的結論は

科学基礎論学会は異分野の研究者間のフォーラムを意図したものであり、今後もこの位置づけを堅持すべきである。

したがって、学会が作成する教科書はフォーラムに参加し議論を行うための共通認識を得ることが目的となる。

この観点から、今回のワークショップは、科学基礎論学会の成立から現在に至る間、学会が「科学基礎論」をどのようにとらえてきたのか、学会誌の内容の変遷を踏まえて再考察する（中根）。さらに文字記録を超えた実態について、これまでに学会に大きく貢献なさってきた方々を招いてご意見をうかがう。

また、現在の高等教育のトレンドと共通教育における科学（村上）を踏まえて、これからの高等教育における科学基礎論のあり方について、フロアからのご意見のききとりを行いたい。